

# 社会と心のバリアフリーについて

## 1 バリアとは？

私たちが暮らしている社会は、年齢、国籍、宗教、仕事など、それぞれ違いがある多様な人たちによって営まれています。

しかしながら、施設などの社会環境は社会の多数を占める人に合わせて作られていることが多いため、障がいのある人など少数である人たちにとっては、不便さや困難さといったバリア(障壁)が生まれることがあります。

誰もが暮らしやすい社会を実現するためには、どのようなバリアが存在するのか、また、それを解消するために何ができるのか、私たちが考える必要があります。

## 2 バリアはどこにある？

障がいのある人などが社会の中で直面しているバリアは、大きく分けて次の4つに分けられます。

### 物理的なバリア

公共交通機関、道路、建物などにおいて、移動面で困難をもたらす物理的なバリアのことを言います。

#### 具体例

建物の出入口に階段しかないので、車椅子使用者にとっては、建物に入るのが困難となった



### 制度的なバリア

社会の制度などによって、障がいのある人などが能力以前の段階で機会均等を奪われているバリアのことを言います。

#### 具体例

資格受験にあたり点字受験を求めたが、前例がないことを理由に断られた



### 4つのバリア

### 文化・情報面でのバリア

情報の伝え方が不十分であるために、必要な情報が平等に得られないバリアのことを言います。

#### 具体例

講演会を実施したが、手話通訳がないため、聴覚に障がいのある人には伝わらなかった



### 意識上のバリア

周囲からの心無い言葉、差別、無関心など障がいのある人などを受け入れないバリアのことを言います。

#### 具体例

盲導犬に対する理解が不十分なため、盲導犬を連れての入店を断られた



### 3 心のバリアフリーとは？

障がいのある人などが直面しているバリアを解消するために、これまで、スロープや点状ブロックなどの設置や案内サインや点字表示、音声案内の整備など、駅や公共交通機関、道路や建物における「ハード面」でのバリアフリーの取組も今後推進する必要がありますが、設備を整備するだけでは、障がいのある人などに対する無関心や誤解から生まれる「意識上のバリア」をなくすことはできません。

「意識上のバリア」を解消するためには

一人ひとりがバリアを感じている人の立場になって行動を起こすことが大切です。

### 4 バリアを感じている人の立場になって行動を起こすためには

#### 無関心はやめましょう

無関心によってバリアを作ったり、バリアを見過ごしたりすることは、困っている人の人権を無視していることにつながりかねません。今一度、自分の周りで、どのようにバリアを感じて困っている人がいるのか、どのような解決方法（バリアフリー）があるのか、目を向けてみましょう。

#### 具体例

点状ブロックがあることに無関心で、その上に自転車を置いたりすることで視覚障がいのある人にバリアを作ってしまいます。



#### 困っている人を見かけたら、声をかけてみましょう

どのように困っているのか理解し、バリアを取り除くためには、困っている人に声をかけて、聞いてみるのが重要です。

#### 具体例

- バリアがあって困っている人に気づいた時は、「私が〇〇しましょうか？」などと声をかけてみましょう。
- 何に困っているのかわからない、またどんなことすべきかわからないという場合もあります。そのような場合には、「何かお困りでしょうか？」「私ができることがありますか？」などと「聞いて」みましょう。



【問い合わせ先】 長万部町役場新幹線推進課

TEL 01377-2-2450 (直通)